

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570100721		
法人名	特別・特定医療法人 社団 松涛会		
事業所名	グループホームわたぼうし		
所在地	山口県下関市横野町3丁目16番35号		
自己評価作成日	平成24年1月17日	評価結果市町受理日	平成24年6月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者は認知症という病気であるが深く豊かな歴史をもった人生の先輩です。常に敬愛の気持ちを忘れず、その人の喜びや不安な気持ちを分かち合いながら寄り添っていくケアに努めています。居心地の良いゆったりとした空間で、思い思いにその人らしく暮らせる環境を整えています。法人内の他事業所との綿密な連携を図り学校方式(コスモス学校)を取り入れてメリハリのある楽しい毎日が送れるよう工夫しています。併設病院とのしっかりとした医療連携の中、心身の健康をサポートし、本人、家族共に安心できる生活を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設病院(法人母体施設)との医療連携体制があり、利用者はそれぞれの担当医による定期受診や訪問看護師による体調管理、必要時の往診、夜間や緊急時への対応など、適切な医療が受けられるように支援しておられ、家族や利用者の信頼や安心感だけではなく、事業所職員の安心感にもつながっております。「地域の中で生き生きとその人らしくゆったりと楽しく自由にありまよ」という事業所の理念に沿ったケアを常に心がけておられ、介護主任のリーダーシップの下、全職員が力を合わせて利用者のその人らしい暮らしを実現するために一人ひとりの思いを大切に支援をしておられます。張り合いのある日々が過ごせる取り組みとして法人内施設で行われる「コスモス学校」に利用者が参加され、なつかしい授業風景や学びの体験をしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所数箇所に掲示し、常に認識しながら、職員一人ひとりがいつも初心にかえってグループホームわたぼうしでの「暮らし」の在り方をみつめ、理念を実践するよう努めている。	地域密着型としての事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示し、朝、夕の申し送りの中で理念の確認を行い、全職員が共有して実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運営推進委員の方と情報交換し合っ て地域の行事に参加し交流を図っている。 (ほたるまつり、夏祭り、子供みこし、芋植え、芋掘り、文化祭、小学生体験学習、支援学校職場体験学習、ビハーラ)	花まつり(御釈迦様)や漁協の広場での夏まつり、小学校のほたるまつり、総合支援学校の「みんなで走ろう」リレーマラソンなどに参加している。秋まつには子どもみこしに立ち寄ってもらったり、小学生の体験学習や総合支援学校職場体験学習の受け入れ、法人の文化祭に作品を展示したり、地域の人と交流できる機会が持てるように、地域との関わりが深まる取り組みに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生のふれあい体験学習で遊びを通じて認知症の方の生活を伝えたり、2級ヘルパー講習で認知症高齢者の事例検討をし、具体的なコミュニケーション方法を指導し学び合うなどした。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は、常に初心にかえることのできる意義あるものと認識している。外部評価でみてきた改善点については、みんなで検討しより良い方向に向けて努力している。	運営者、管理者、職員は評価の意義について理解している。自己評価書を全員に配布し常勤職員には全項目、非常勤職員には分かる項目について記入してもらい、主任と副主任でまとめ、全職員で確認している。自己評価の過程で、チームケアについての問題意識を持つことができたと捉えている。前回の外部評価結果については、スタッフミーティングで話し合い、一次救命やAEDの研修を行うなどできることから改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。地域包括センター職員、民生委員、第三者委員、家族代表、入居者代表、職員代表で意見交換し運営に役立てている。また地域の情報を交換して行事への参加につなげている。	会議を2ヵ月に1回開催し、事業所の現状、利用者の状況、職員の動行、行事(計画、実施)などの取り組みを報告している。参加者がそれぞれの立場から情報を提供し、意見交換をして出された意見を運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課担当職員や、安岡支所の職員との連絡は取り合っている。今後更に協力関係を築きケアサービス向上に努めていきたい。	運営推進会議には、地域包括支援センターの職員が参加している。市の担当課には関係書類や事故報告書などの提出時に事業所の実状を伝え、疑問点について質問するなど情報交換をしている。支所の職員とは連絡を取り合って協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠しないケアの大切さやスピーチロックの弊害について話し合い拘束をしないケアの実践をしている。	全職員は身体拘束について正しく理解し、抑制や拘束をしないケアを実践している。特にスピーチロックについては、毎月のスタッフミーティングで取り上げたり、具体的な行為については事例をあげて説明するなど徹底している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に言葉づかいの大切さ、対応の問題点を話し合い、ニュースでの事例をもとに検討し合うなどして虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の研修会に参加し学んでいる。成年後見制度を取り入れる家族より情報提供を求められた場合は、家族間の問題に踏み込みすぎないアドバイスをを行っている。自立支援や各種制度も学んでいく。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて十分な説明をし疑問点にはしっかり答え、理解・納得していただけるよう努力している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など要望を受けて、相談に応えている。家族の意見は伝達簿にて速やかに全職員に伝えて改善が必要な場合は話し合い改善策をたて実践している。	家族に意見や要望等を気軽に何でも言ってもらうように伝え、面会時には、必ず職員のほうから声かけをして、要望など言いやすい雰囲気をつくるように心がけている。出された意見は職員で話し合い共有して改善に取り組んでいる。苦情、相談の受付体制や処理手続きを定め周知している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を述べやすい職場の空気づくりに努め、できるだけひとりひとりの気持ちを聴くようにこころがけている。法人内で毎週開催している事業所長会議において意見を述べスタッフの気持ちや提案を反映している。	スタッフミーティングの中で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。日常の業務の中で主任や副主任が直接職員からの意見や提案を聞くこともあり、職員からの意見や提案を毎週行なっている法人の事業所長会議で報告し、職員の意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心をもって働ける職場環境の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修により多く参加できるよう調整し、職員の育成に努めている。参加者は研修報告をして他の職員に学んだことを伝えている。	外部研修は職員の勤務経験や段階に応じて、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講者は復命報告をしている。スタッフミーティングの中で必要に応じて研修をし、職員が働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームブロック会開催の研修会に参加し情報交換を行い質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より情報をしっかり聞き、本人の生活歴や取り巻く環境を理解し、訴えに耳を傾け、安心できる環境を整えて、なじみの関係が生まれるまで根気強くきめ細かい配慮あるケアに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族からの要望を聞くと共に、協力体制が図れるよう努めている。また医療的な支援が必要になった場合についての具体的なケースについても説明し安心を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	わたぼうしの生活とサービスがどのようなものであるか、しっかり伝えていく中で、本人と家族の求めていることをキャッチし必要な支援を見極め優先順位を付けて実施対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いつも入居者と同じ視点で同じ方向をみつめ、求めるものには応え、できたことを共に喜び共に笑い、自然に気持ちが共有できるような関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の様子や体調の変化などを細かく伝え、家族と一緒に考えて本人にとってよりよい方法で対応するよう努め共に支えあうようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪れた家族や知人の方々が本人と「ゆったり過せるやすらげる場」づくりに配慮している。また電話の取り継ぎも随時行って大切な人たちとの縁を途切れないよう援助している。	家族、身内の人、知人、近所の人などの来訪が度々あり、利用者と気持ちよく過ごせるように支援している。家族の協力を得て、自宅に帰ったり、兄弟の家に泊ったり、法事への参加など、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮した配席を工夫したり、ふれあいのきっかけを提供し、集団の中で孤立を感じることがないように注意深く見守り、必要に応じて間に入ったり声をかけたりしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居となった方には、お見舞いに行く等し、ご家族の相談を受け、この先の不安を受けとめ、他のサービス関係者との架け橋になれるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に寄り添い共に生活する中で、一人ひとりの思いや希望を受け止め各人の意向に添えるようにしている。意向の訴えが明確でない方の思いも汲み取れるよう職員の専門性、質の向上に努めている。	センター方式のシートの活用や日常の関わりの中で本人に寄り添い、ゆっくり話を聞いて、会話の中の何げない言葉や思いがけない発言などを「ふれあい記録」に記録して、思いや意向の把握に努めている。聞き取ることが困難な場合は、表現や行動から推し測ったり、家族から情報を得るなどして、職員間で話し合い、本人の思いに沿ったケアができるように検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各人の生活歴や暮らしぶりの把握に努め、家族との情報交換の場を多く設け理解を深めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事量、水分摂取量、排泄状況など心身の状態などをきちんと把握し、通常との変化を速やかに担当看護師に伝え指示を仰ぎ対応している。職員間の報告、連絡、相談を徹底し対応方法など記録伝達している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・看護師・職員それぞれの意見を反映し、現状に即したプランの作成に努めている。変化が生じた場合は速やかに家族に報告し意向を伺う。職員間でしっかり協議し皆でプラン作成。	月1回ケアカンファレンスを開催し、利用者の思いや意向、家族の意見、把握している情報、ふれあい記録などを参考にして全職員で話し合い介護計画を作成している。毎月のスタッフ会議でモニタリングを実施し、6ヶ月毎の見直しや利用者の状況の変化に応じての見直しを行なっている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活活動表やふれあい記録を活用し心身両面のよりよい支援を目指して職員間で情報を共有し改善、見直しに生かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他部署と連携し「学校方式」を取り入れ機能訓練や楽しみ生きがいの提供をしている。また、本人・家族の要望による外出・外泊・家族の宿泊等には柔軟に対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を中心に地域との情報交換が広がっている。更に地域資源を活用し、より豊かで生き生き暮らせる環境づくりに取り組んでいる。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院への受診および他科受診においては、要望や体調の変化に応じた速やかな対応を行っている。各自の担当医が常態を把握しているので適切な処置ができ家族の安心と信頼を得ている。	本人や家族の納得を得て、併設の協力医療機関をかかりつけ医としている。定期受診や訪問看護師による体調管理、必要時の往診、緊急時の対応など適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携し週3回の体調管理を行っている。バイタルチェック、排泄チェック、水分食事の摂取量を確認の上、不調の場合は医師に連絡して受診している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院との医療連携があり、本人家族職員の大きな安心につながっている。相談員との情報交換もスムーズにできており、家族の希望にできるだけ応えられるようにしている。希望がありタイミングが合って再入居された方が数人おられる。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当の訪問看護師と共働き家族に向けてターミナルケアの説明会を実施、互いに方針を共有している。希望があれば随時家族とドクターの面談を取り持っている。	契約時に「看取りに関する指針」について家族に説明している。状態に変化があったり、重度化した場合は、その都度、家族、主治医、看護師、職員等で話し合い、次の支援につなげるための方針を共有して支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	インシデント報告を活用し、ひとりひとりの状態・リスクを把握し事故防止に努めている。一次救命のマニュアルを元に学びあったり、訪問看護師の指導で実技訓練を実施し、緊急時に備えている。	事故やインシデント報告書に記録し、職員で対応策を話し合い、月1回の医療安全担当者会議において、一人ひとりに応じた事故防止について検討し、介護計画に反映させて、事故防止に取り組んでいる。一次救命やAEDの研修は実施しているが応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施までには至っていない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体での避難訓練と併せホーム独自の火災時避難訓練を実施している。2ヶ月ごとに専門家(地域家族)指導の元、色々な場面を想定し独自の訓練を実施した。	施設全体として年1回の避難訓練を実施している。事業所独自の避難訓練を2ヶ月毎に実施し、通報、消火、避難など元消防士の協力を得て実施している。運営推進会議で地域への働きかけはしているが、協力体制を築くまでには至っていない。	・災害時における地域との協力体制の構築

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意を持って丁寧な言葉遣いで接するように心がけている。声かけはその人その人話し方、声のトーン、言葉遣いを少しずつ変えるなどしたり、相手の言動を否定批判せず、自尊心を傷つけないよう接している。	利用者に対して敬意を払い、日常の関わりの中での声かけや対応に気をつけて接している。気づいたことはスタッフミーティングで話し合い、利用者一人ひとりが誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないことに徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を言いやすい関係作りを心がけて自己決定を支援している。自分の思いを表出できない方は、表情やしぐさをよく見て気持ちをキャッチできるよう努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	担当制で個別対応し、その人の体調や気持ちに添って関わり、会話の中で興味を示したことにそって支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる人は、ほめるなどしておしゃれを認め、出来ない人には、時間をかけても少しでも自分でできるものを見つけながらサポートしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳・下膳、テーブル拭き、食器洗い、食器拭き等それぞれその人ができることに参加してもらっている。	法人の厨房から栄養バランスに配慮した食事の配食を受けている。利用者は盛り付け、配膳、台拭き、下膳、食器洗いなど一人ひとりができる事を職員と一緒にしている。毎月1日と15日を寿司や赤飯にしたり、折り詰めにして戸外で食べたり、行事食が楽しめるように工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養科より栄養管理した配食をしてもらっている。食事量・水分量をチェックし一人ひとりの状態を把握している。糖尿病の方の食事のコントロールや、嚥下障害のある方への対応もしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後速やかに口腔ケアをしている。個人の能力にあわせたサポートを心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンや排泄状態を把握すると同時に、本人からのサインを見逃さないようにし、さりげない形でのトイレ誘導を心がけている。ほとんどの人がトイレで排泄できている。また調子をみて布パンツへ。	排泄記録表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、タイミングに合わせて、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、体操、散歩を促し健康管理に注意を払っている。それでも便秘の方にはついては、訪問看護師の指導にて、緩下剤を服用している。緩下剤服用後は急激な排泄後の血圧の変動などに特に注意している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	マンツーマンでの入浴介助にて自分で出来ることはしていただいている。入浴をいやがられる方には、その日のメンバーが知恵を出し合って促したり、時間を変えて改めてすすめるなどしている。	入浴は週2～3回、午前中を基本としているが、希望すれば、毎日可能であり、ゆっくり楽しめるように支援している。入浴したくない人には、職員が交代したり、タイミングをずらしたり、声かけを工夫して、無理強いせずに入れるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やその人の状態を見て休息を促している。夜間眠れない人については、医師の指導の下入眠誘導剤の処方適宜行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導を受けて、全ての人の服薬管理をしている。服薬時は、氏名、日時を確認したのち手渡し、確実に飲み込めたかのチェックをしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器拭き、掃除、塗り絵、書写、計算、生け花、などの他コスモス学校での体育、音楽、国語を楽しんでいる。また売店で買物したりコーヒーを飲んで気分転換をしている。	法人内施設であるコスモス学校(週2回、体育、音楽、国語)に7～10人の利用者が通っている。絵画やぬり絵、生花、工作、歌、コンビニや法人施設内の売店での買い物、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の準備、後片づけ、掃除など、一人ひとりの楽しみごとやできること、したいことなどの活躍の場面をつくり、利用者が張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があり体調がよければ近所や施設内の散歩など一緒に出掛けたり、デイケアの車を借りてドライブしたりしている。季節折々の風物に触れる機会を増やすよう努めている。	近所や法人施設内の散歩、受診帰りのドライブ、季節の花見などで外出する他、家族の協力を得て買い物や外出が楽しめるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方は2～3千円程度は持っていたい。個人の所有が困難な人については預かり管理している。希望に応じてお茶を飲んだりお菓子を買っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が事前に了解されている方については、要望があれば電話して安心してもらっている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日各居室の温度、湿度をチェックし加湿などの対処をして健康的な環境を保つよう努力している。また気持ちが安らぐような花のある空間を設けたり、心地よい音楽を程よい音量で流すなど工夫している。	玄関や廊下、リビングなどの共用空間が広くゆったりとしている。大きなソファが各所に配置しており、アンティークの調度品や季節感のある飾り物、花がたくさん置いてあり、写真や絵画が飾ってあるなど、利用者の五感に配慮して落ち着いて過ごせる空間づくりをしている。音や温度、湿度、換気にも気を配り、掃除の行き届いた清潔なたたずまいの中で利用者が過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い廊下やロビーの各所にソファを置き思い思い気に入った場所でくつろげるような空間づくりを工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人なじみの家具や小物を置き、これまでの住まいに近い環境づくりができるよう家族と一緒にを行っている。また、転倒のリスクの高い人については、安全面に考慮した配置にしている。	ベッド、タンス、衣装箱、テレビ、机、椅子などの使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真や絵画を飾り、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでトイレの段差がないことで、なんとか自力で排泄が可能の方が何人もおられる。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームわたぼうし

作成日： 平成 24年 6月 1日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全ての職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練が出来ていない。	インシデント事例に即し応急手当、初期対応の訓練を定期的に行う。	訪問看護師の指導で年2回勉強会及び訓練を実施し、実践力を身につける。	1年
2	36	災害時における地域との協力体制ができていない。	地元の消防団の方に事業所で行う避難訓練に参加してもらい、協力体制の構築に努める。	運営推進委員の方を通じて横野地区消防団の方との交流を持ち、わたぼうしの避難訓練への参加を呼びかける。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。